

1 創業支援について（とやま起業未来塾事業）

（1）事業レビューでの意見

- ① 起業未来塾は2005年に開講して16年経過しているので総括が必要。1回この事業をきっちり閉めて見直しをしていく。
- ② 起業未来塾は16年経っているので、ロールモデルは既にあるのではないか。それをこれからは民間に手渡していく。それから企業と県と起業家との連携が必要。
- ③ 税金を使う事業なので、納税でそれを返すという仕組み、数字（継続率、雇用数等）の捕捉が必要。
- ④ 学士会に関しても、継続をするという意味では、県が少しサポートをしていく必要がある。
- ⑤ 2005年とは状況が違っている。民間の講座が増えてきている。そういう意味では抜本的な見直しが必要。
- ⑥ ユニコーンのような会社を目指すのか、富山県民の皆さんに創業してもらうためのカルチャーを広げるのか、あるいは、これから出てくる事業承継に絞っていくのか、一度立ち止まって、何を検討して支援をしなければならないというところからみてもらいたい。
- ⑦ 上場企業をつくるということが目的化するのには、道を間違えると、県から何千万円もつぎ込んで、結局、1社も上場しないということにもなりかねない。税金をかけて実施するプログラムとしては、何段階もハードルがあると思う。
- ⑧ IPOを目指すような事業をつくるのであれば、目標をしっかりと明確化させるべき。
- ⑨ 若者への広報が必要で、SNSを活用していったらどうか。

（2）意見に対する県の考え方

- ・ 起業未来塾は、県内の見識の高い企業経営者の協力を得て、多くの起業家を育成しロールモデルとなる者が輩出され、他県のモデルとなるとともに、民間事業者による創業支援やインキュベーション施設が開設されるなど大きな成果が得られたことから、事業を廃止するが、引き続き事業効果の把握に努める。（①、③について）
- ・ 起業家の育成については、市町村や民間事業者の取組みを支援する。（②、⑤について）
- ・ 県内に起業にチャレンジする気運が醸成されたことから、今後は目標を明確にしたうえで、大きく急成長するベンチャー企業（スタートアップ企業）創出のため、事業を強化する。（⑥、⑦、⑧、⑨について）
- ・ 現在整備中の創業支援センターを、起業家ネットワークの拠点とし、起業家と他者等との連携を強化する。（②、④について）

（3）令和4年度予算（案）における見直し内容

- ・ 市町村や民間事業者等の創業スクールの開講を支援する制度を創設（4,000千円）
 - ・ スタートアップ企業創出のため、大学等への調査や支援ネットワーク構築、専門家による集中支援など、更なる強化を図る（58,200千円）
- ・ 令和3年度予算 ー 令和4年度予算（案） 62,200千円

2 国際工芸アワードについて（「国際工芸アワードとやま」開催事業費）

（1）事業レビューでの意見

- ① 税金をかけて実施するものとしてふさわしいのか、狙いと合っているのか、何を目的として予算をつぎ込みむのかをよく議論してほしい。
- ② このような事業の成果は金額では評価しにくい。
- ③ 工芸作家の育成ということであれば、県内のものを集めてそれを海外で、例えば展示会を実施し評価を得るなど、そういう事業をやった方が工芸家の意欲につながるのではないかと。国内で評価されなくても海外で評価されることもある。
- ④ 事業の目的を明確化すべき。「国際」というより、若手の出展の機会を増やす、若手の芽を作ってあげる事業で良いのではないかと。
- ⑤ 県民が見て、費用対効果が良くないといけない。税金をつぎ込む以上、期待する数値を明確にすべきである。
- ⑥ この事業は国籍が不問ということで、富山に限らずいろんな国の方が応募できるが、この事業を富山でやる必要があるのか。富山限定のアワードにしたらどうか。
- ⑦ 日本のカルチャーを振興していくことは素晴らしい。お金を集めてでも、国際工芸アワードをやるべきである。

（2）意見に対する県の考え方

- ・ この事業の主な目的として若手作家の育成があり、今後も引き続き作品制作及び作品発表の場の創出を支援していきたいと考えているが、実績のない若手がいきなり海外で展示を行うことは現実的ではないため、まずは県外（東京等）での開催をめざしたい（①、③、④について）
- ・ どのようなものを成果指標とするかについては今後検討したい（②、⑤について）
- ・ この事業を富山で開催したのは世界に向けて「工芸の富山」を発信するとともに、世界から集まった優れた作品を県民が観覧する場を設けるためであり、県民限定であれば既存の公募展（県展、越中アートフェスタ）で足りると考えている（⑥について）
- ・ 世界に向け文化を発信することは重要であると考えているが、国際的な事業は来年度も新型コロナの影響を大きく受けることが見込まれ、ひとまず国内での取組みに力を入れたいと考えている（⑦について）

（3）令和4年度予算（案）における見直し内容

- ・ これまでの3年に1回の国際公募展で若手作家を顕彰するという手法から、継続して県内の若手作家の育成や作品制作・発表機会の創出をはかる内容に見直す。
- ・ 具体的には、これまでのアワードの受賞者等新進気鋭の若手作家と県内作家との協同制作の機会を設けるとともに、できあがった作品を県内外で展示することなどを予定している。
- ・ 令和3年度予算 21,940千円 令和4年度予算（案） 18,000千円

3 園芸産地支援について（1億円産地づくり加速化事業）

（1）事業レビューでの意見

- ① JAありきでなく、この事業の対象となる農家が、どうしたら稲作以外のものに取り組むのかという観点から検討したらどうか。
- ② 生産者に園芸で収益が確保できることを示し、事業として成り立つ園芸生産に向けて補助するという見せ方にすべきでないか。
- ③ 生産性の向上には、機械設備、デジタル情報設備などの機械化に思い切って補助しないと成果が出ないのではないか。
- ④ 新規に農業（園芸）に取り組む意欲がある人・法人が、参入しやすい環境が大事だと思う。
- ⑤ 農業への支援については、とても良いことだと思うが、目的とターゲットを絞り、それに合わせた政策を検討してはどうか。

（2）意見に対する県の考え方

- ・ 本事業では、JAが取り組む園芸の大規模産地づくりの支援を通じ、園芸生産の拡大と農業者の経営安定を狙いとしてきたが、今後は、園芸作物の導入による農業者の経営安定の観点をより明確にする必要がある。（①について）
- ・ 生産者に、品目・作付規模に応じて必要な労働力や機械・施設が分かる経営モデルにより、収益が確保できることを示して園芸生産を推進するとともに、収量・品質向上や機械化等による生産性向上等により、園芸が事業として成り立つ仕組みに配慮した支援が重要である。（②について）
- ・ 収益確保のため、生産性の向上につながるスマート農機やICTの活用を支援していく必要がある。（③について）
- ・ 新規就農には、栽培技術研修による技術習得や、農業経営を実地で学ぶチャレンジファームの整備など、就農促進や産地の受け入れ体制強化への支援が重要である。（④について）
- ・ 園芸作物に取り組む生産者の収益確保を目的とし、園芸生産に意欲的な生産者をターゲットとして支援策を実施してまいりたい。（⑤について）

（3）令和4年度予算（案）における見直し内容

- ・ JAが定める戦略品目から、機械化体系確立品目や地域が振興する品目を対象とし、産地をけん引するリーディング経営体への重点指導による収益向上と、モデルを目指す経営体の育成段階に応じたソフト、ハード両面からの支援のほか、チャレンジファームの設置等の支援などを通じて、園芸作物の生産拡大につながるよう見直す。
- ・ 令和3年度予算 67,400千円
（1億円産地づくり加速化事業、とやまの園芸産地グレードアップ事業）

令和4年度予算（案）100,000千円